



9
1064
8



79
1064
8

普救類方卷之四下



驚悸

物驚馬さ心悸して止ざらん

半夏麻黄各分粉ふ一蜜して移り小豆の大さ丸

ト三十粒白湯にて用也日小三度用て

又方本饅頭炒白牽牛子各分粉にして二五粒飯乃

とり湯にて用也 同

林良通

丹羽正伯

纂輯



91-1816

不寐 附多睡

晝夜眠あらず

あざしき木と火を多り目眩髪茶に大豆と蒸して

すいれ枕と冷まこ飯とて枕して自然に眠る

本草綱目

又方猪鬃灰くちくちを水みづに粉こなめて一匁いちぼんづ湯ゆして用もち也 同

又方燈心とうしん下したを水みづに煮ゆつつふふののをを用もち也 同

又方馬頭膏ばとうこうやき灰あしして一匁いちぼん乳香にゅうかう一匁いちぼん酸枣仁さんそうじん炒あぶて二匁にぼん

之味あじ同おなく粉こなめて二匁にぼんづ温ぬるめ酒さけを飲の下した也 同

又方榆白皮ゆはくひを陰かげがけけ粉こなめて二匁にぼん水みづを煮ゆつつはめ

膏こうののぶぶくく一いち網あみ晚ゆふののをを用もち也 傳信易方

物ものをを煮ゆつつ中ちゆうをを胸むねににたたかかして夜眠よるねをを治なす 本草綱目

煩熱ぼんねつして眠ねぐぐたたららず

小麥せうばくを飯いりににたたかか水みづを漬ひけ食くして用もち也 彙聚單方

眠ねぐぐたたららず目めををささぬぬくくたたららず 馬頭膏ばとうこうを燒や灰あしして一匁いちぼん白湯はくたうをを用もち也 日夜一匁

づのづのをを一いち或あるは馬頭膏ばとうこうとと粉こなめて用もち也 衛生易簡方

健忘

病びやうを物もの忘わすれれる

蓮肉れんじゆ皮ひととろろみみ粉こなめめ一いち粳米じやうまい半はん合あ粥じやくを煮ゆ右みぎの蓮肉

の粉こなををいいれれかかききまま食くして用もち也 彙聚單方

又方丙午ひのひまれ日ひ小こまま鼈甲べいけいを懷かかり入いるる也 同

又方七月七日しちがつしちじつ小こ菖蒲根しょうぼこんととろろ粉こなめて二匁にぼん酒さけをを用もち也

但たゞし酒さけをを醉あららせせ飲のべべ一いち衛生易簡方

又方白商陸花はくしやうりくかを陰かげがけけととろろ水みづをを用もち也 百日ひゃくじつゆゆて搗つ粉こなめめ一

匁ぼんづ水みづをを用もち也 毎日まいにち暮くれぐぐふ用もちて用もち也 同

又方戊子つちのひ乃日のひ東あづまへへ一いち匁ぼん桃枝たうしととすすききりり寢ねふふたたららず

起居雜症

かけ走く咽かりれ冷水と飲いより氣のあつて熱さうらへ
淡竹葉十片陳皮一匁水一合中ゆく蒸し半分蒸し
汁を飲てより本草綱目

遠路かたむ往ありて咽うらへ

括樓仁を粉ふ水乃沫して豆粥丸してを路へ往ん

車いり衛生易簡方

徐長卿石長生郁李根乃皮車前子四味を分蒸す

いれ或ハ懐中に入れて頭よいつた帯につけずとれど

水本草綱目

蛇苗の根を搗粉し

多くをそより夏月水よりんとすふハ先右乃蛇苗の

粉少々り流しらしむる毒みわたりとれ同

勞症

勞忘けり時をばらちて熱は咳嗽か盜汗をいそ氣お

稲草根と細くまきみ水にて洗蒸すら飲ては續易簡方

脊肉れらし熱ありてよく飲食とれども瘦せし汗出るは

骨蒸の症とす日よても夜ほくも熱さうらへ治し

中しく日夜さうらへ熱ある治し

羚羊角を粉して二匁湯に入かきまを飲てより衛生易簡方

又方生地黃を搗汁をちかり飲てより若服厚者より

用べし同

又方玄參多柴胡等分以七葉三片棗一ツ水菘碗
一盃半以八分以薑一盃一匙同
又方生枳杷子を酒に浸して七日以て其酒を飲べ
よれ加減は醉をどのを止熱は昼夜入るる用也 傳信方
勞瘧は不足乃心熱と云

加黃連を粉小一飯のそり湯にて用也 衛生易方

勞瘧痰血咯血を治めて咳嗽寒熱を治る

葱肉は葱山椒を入漿油にて煮食とべし抄やく食

てし 本草綱目

勞瘧病は肉瘦骨をらるる

鯉鱧をまり二百二十及酒五合にて煮熱し塩と醋を

かきとりつれ入良とべし同

虚勞はく睡をわらざる

大棗十四葱白七薑水天月小三盃入一盃は薑一盃

天月 衛生易方

又方酸棗仁榆葉を粉小一匙はく移り三ツ大とふ

九トナ粒づつ白湯にて煮べし日小二度づつ用せし同

虚勞は口乾ま止る

麥粥冬十及粉小一棗二十肉をとり蜜四合にて右二

味をのきませ二升程かく米の下に入蒸していつやも食

とふ 千金方

腎虚乃勞瘧也

破故紙百々粉小一胡桃肉二百々皮をとり研はぎ

二味同じく蜜をわらせ給のどく一毎旦温ゆる酒の

内へ入かきませ空腹は飲後合棗とべし或は湯

かきませ用はは但し一度一匙づつ入用せし 衛生易方

勞疰血分々々之面黒く耳聾目くら口中乾き小便白濁
出らふ

鹿茸酒して蒸當歸酒して浸し炙る粉や烏梅肉
をとり煮やりげ右の粉とねまぜ大豆の大きき丸ドて
み千粒で空腹に飯後より湯にて用也 同

勞疰血わらへ骨髄虚一面痛む脊痛て久しき
もまごど菌より眠がらかりふ

鹿茸二十粒牛膝十粒酒に浸し炙る粉や烏梅肉
粉小蜜はく移り大豆の大きき丸ドみ千粒程で空
腹に塩湯にて用也 同

虚勞陽氣やうく小便赤く瀝濁るふ

烏頭皮と脐と皮より熱厚しれ炮み苗香炒て多分
粉小糊と生薑汁にてやりげ右の粉と移り大豆の大きき

丸ドて二十粒空腹に温め酒にて用也次粉小加へて二十
粒程で用也 傳信易方

勞瘵虫ありて腹赤脈ある

呉茱萸の根と粉ありてすまゑ穂四合半鶏子白葛根
こつ蠟すまゑ移り合半小豆の大きき丸ドて二十粒飯

のこり湯にて用也虫ありてより 本草綱目

勞瘵傳瘵く一門きくを煩う
癩肝一ツ陰がはく粉ありて一合づ水を湯にて用也日みこ度
用也 衛生易方

ス方山椒口とどろろねとすまゑ穂すり粉を汗をわき粉小
してこゑで空腹に飯のこり湯にて用也虫腹中にて死べり同

ス方玉氏仁を焙かひく粉ありて温め酒にて用也 同
同

癩癩

癩癩ハ俗言ハはどかき又ハてんごかきをてんご病ナリ

白礬ハ磨キ細茶ハぬる粉ヲ蜜ヲとシ移リ大豆ノ水ヲ小丸トシ

て六十粒ト茶湯ヲと用伝信カ易方

又方伏翼一ツ胎トとレ辰砂ニをツり土器入シ火ヲ

煨ル取ル火氣ヲをシ散シ中ノり粉ヲ用ひ分らシて

空腹ハ白湯ヲと吞べ一氣ヲより人ヲ養ハ小兒ノハ一日ト用

分ラシテ飲ムハ一日ト用一日ト用一日ト用

く用ルハ一日ト同

又方紫蘇子ニテ土子燭トと炒黄色ハ一牛蒺藜子ト

女炒疆蚕炒テ七分辰砂ニハひらに粉ハ一日ト用

かきて一日ト用一日ト用一日ト用

又方麻仁一升水一升火一升を合しレ火をはして煮麻仁

のカラシマシり付麻仁と去ス蒸シて二合サレ煮つり空腹ト

飲ムハ一病ノ人ノ多ク其ノカラシマシリテ一日ト用

者ノ病ノ人ノ多ク其ノカラシマシリテ一日ト用

劑ヲ用シて一日ト用一日ト用一日ト用

又方褐色ノ守宮一斤と研末ト辰砂と麝香ノ粉

と合しレ薄荷ノ蒸湯ヲ入シ攪マゼノと一日ト用

用シて一日ト用一日ト用一日ト用

心虚トレ癩癩癩癩癩癩癩癩癩癩癩癩癩癩

天門冬心と皮と去乾一粉ヲと一日ト用

用シて一日ト用一日ト用一日ト用

癩癩癩癩癩癩癩癩癩癩癩癩癩癩癩

癩癩癩癩癩癩癩癩癩癩癩癩癩癩癩

芭蕉の油とのそて涎を吐てより芭蕉の油を取ハ滌を
とりやうしてとるべし 彙聚單方

小兒の癩癩み

茶子二合を水一升にて濃蒸し早朝より多く飲て烏乃
咽て喉と探痰を吐しりてより此茶子用ゆり前乃夜
何れも人良とぶべし 暴證知要

又方青黛を水にのみきまぜ用てより 本草綱目

又方牽牛頭末一匁苗香二匁五分粉ふし姜汁にのみきまぜ

少づ鼻のうらみ灌つてより辛に倒て生れぬれみ用

てより 暴證知要

又方犀角を粉ふし水にのみきまぜ用て辛に倒て生れぬれ

まみ用の 本草綱目

狗乳をくわたりて思う人を殺さん此水も火をもさけらる

苦参を粉ふし蜜にゆるり大豆のたごん丸に二十粒

ばげ薄芥の煎湯にて用也 肘後備急方

又方苦参を五月五日ふり晒かたり粉ふし蜜にてゆるり

大豆のたごん丸に二十粒を衣して百粒黄連の煎湯

にて用也 傳信方易方

又方巴豆五粒烏梅肉をすり搗て水少しをゆるり大豆

のたごん丸に二十粒を衣して夜寝る時より生れ姜湯にて

用也大人より二十粒或は三十粒小兒より六七粒用ひ大便

三五度なりてより白粥と食して補べし 同

又方蝦蟇を焼搗粉みしてこぶづ酒にて用也日なを

用てよりぬらひにねれしよりみ用てより 肘後備急方

病よりりてやまざるふ

塩とやまき赤くし河水にて蒸し沸てく啜咽をさぐり

痰と吐出てよし 本草綱目

血證

吐血

一切吐血

白茅根と水と煎じ用也或ハ生茅根と搗汁とをば

つとり飲べし 本草綱目

又方蓮葉七枚水といれ搗て其汁をのそてよし又ハ霜を經て敗らる蓮葉瓜やき粉をて二五づ級をその水と

て用也 同

又方小便と姜汁とをかきまぜのそてよし 同

又方霜を經て赤くかりたる葉を焙り粉にして二五茶湯とて用也 同

又方釜臍墨を粉にして二五酒とてのび下或ハ酒とをろ

水とをかきまぜ蜜を少一加へ飲べしよし 同

又方極上の墨れ汁と蘿蔔汁をかきまぜのそてよし 同

又方蒲黃の粉二五温る酒とて用也或ハ水とて用也 同

又方鬱金れ粉一五水とて用也 同

又方烏賊骨を粉にして二五飯のとて湯とて用也 同

又方干葉石榴花乾を粉ふし鼻の中へ入れてよし

側柏葉を加へてつとれあり 彙聚單方

心氣を勞して吐血とるれ

蓮子ぬまり四の青き心瓜と七粒糯米二十一粒をくふ

搗細し一兩に用也 本草綱目

肺經を損とるれ吐血するふ

阿膠炒て二五木香二五糯米は合同よく粉にして二五

普救類方一巻之四下

煎熟して湯に入れかきませのどに同
又方黄芪二ふろ分紫背浮萍五ふ粉めて一ふづき
と蜜を少いおきませのどにしてより同

氣痔を治すより吐血を治す

香附子の粉二ふ童便一ふかきませのどより同

或ハ夏或ハ怒により血を止む吐す

側柏葉を粉めて二ふ飯のどり湯を同用也

酒やぐれわくねい内換して吐血を治す

白麩を箱羅してふるい蓋を付る粉をとりうらく炒て

二ふ京墨と濃くすりお汁を少いおきませのどより或ハ

蓮藕を節を搥汁をちがりとり右の白麩とあきませの

とてより同

吐血發熱て喉の中より血

韭汁童便各分けて一碗乃内へ替金の粉少く入る

よ若替金かくい山茶花をく用てより 治法彙

小兒乃吐血

蛇蛻を焼灰にして五分乳汁にて用也 本草綱目

又方生蒲黄油髮灰各を粉めて一ふ生の地黄汁を

用也又い米飲に用てより 得効方

又方白芨を粉少く飯乃り湯を同用也 異證知要

咯血 附款血

咯血ハ款がたつて吐くはうる血がづ喉より出るなり

槐花を炒粉少く二ふづ糯米を煮てれうい湯を

用也 本草綱目

又方新しき綿をやち厚くして五分酒をかきませ食後

用也 衛生易簡方

又方側柏葉を瓦上にて焙かいて粉小して之を飯乃
どり湯小かきませ食後一用也 同

又方白芍薬十五厘角二分五分粉小して一をづ汲くそ乃
あつて飲べし 本草綱目

又方千葉石榴花乾く粉小し鼻の中へづ吹入べし 側
柏葉とらつていやくとるなり 彙聚單方

又方白芍十五厘節五分粉小して一をづ白湯にて吞じ 治法彙
效乃皮は血少づつ物諸薬を治すなり

生蘿蔔汁は碗塩少入飲べし生蘿蔔かへ子一をづ種
葉一をづ水と煎用也 同

唾血 唾血
唾血まづつてゆるふ
槐花を炒粉して二をづ糯米と煮て湯にて用也 本草綱目

又方蒲黃の粉二をづ温め酒にて用也或いはあつて
用りより 同

舌血 舌血
舌より血出るふ
槐花を粉小し傳てより 本草綱目

又方乾麻仁三四十粒とり紙小かり紙捲いて出ぬも
し吹けし其烟を鼻の中を物とてより 同

又方赤小豆一合を杵き水三合入れかきませ汁と去
かりより飲てより 同

又方香薷を水と煮て蒸し物とてより 同
舌硬くして血出ると

本賦を水と蒸し物とてより 同
又方大薊を搗汁をちかり酒にかきませ用也乾ふ

刺藜トゲクサ粉こなし冷水ひやみづを用もち同

舌腫しつしゅこりり血ち少すくらるゝと泉いづみれどくちりふ

烏賊骨イサカボネ蒲黄ハハコ各おのづか分ぶん粉こなし舌しつにゆるてより同

又方また百草霜ハクソウソウ人參じんじん各おのづか分ぶん醋すうほくとに舌しつにゆるてより

又方また槐花かいけを炒あぶ粉こなし舌しつに掺まじてより同

又方また青黛せいだい黑黄くわい各おのづか分ぶん粉こなし舌しつにゆるてより同

衄血しゅくけつ物もの止とどまらば

棕桐そうとう乃すなは皮かわを燒や灰はいし鼻びに吹ふいてより 本草綱目

又方また槐花かいけ烏賊骨いさかぼね各おのづか分ぶん半はん分ぶん炒あぶすかい生せいじて粉こなし

又方また鯉魚鱗りぎょりんを炒あぶ粉こなしてより冷水ひやみづに用もち同

又方また粟殼もろこしをやき研こて粉こなし一ひと斗と粥じゆくのうち湯ゆに用もち同

又方また冷水ひやみづによぎをいてより同

又方また百草霜ハクソウソウを鼻びのうちへ吹ふいてより同

又方また艾あとやきし灰はいし鼻びの中ちゆうへいてより同

又方また艾あとやきし灰はいし鼻びの中ちゆうへいてより同

又方また艾あとやきし灰はいし鼻びの中ちゆうへいてより同

又方また艾あとやきし灰はいし鼻びの中ちゆうへいてより同

又方また艾あとやきし灰はいし鼻びの中ちゆうへいてより同

又方また艾あとやきし灰はいし鼻びの中ちゆうへいてより同

又方また艾あとやきし灰はいし鼻びの中ちゆうへいてより同

又方また艾あとやきし灰はいし鼻びの中ちゆうへいてより同

衄血しゅくけつのちゆう頭づ痛いたむ

石膏せうこう牡蠣ぼくろ各おのづか分ぶん粉こなして二ふた斗と清せいと水みづを飲のべい養やうに

かさませ鼻び乃すなは内うちへいてより同

衄血くさつちゆうして眩暈めまいして死しかんとするん

青箱せいしやう子を搗つ汁じゆうをすり鼻はなのうらへきくぞ入いてより同

又方極上ごくじやうの墨すみとくすり蘿蔔汁だいごんじゆうはこれのよきより同

又方乱髮らんぱつとよき粉こなあて一匁いちもん水みづと飲のみべし并なみにちり粉こなを

鼻はなの中なかへ吹ふいれてより同

湿しつはわたり衄血くさつちゆういづふ

茯苓ふくろう乾姜けんきやう各おのづか十五匁じふごもん甘草かんさう炙ありて五匁ごもん白朮びやくじつまきぎみて二匁

水みづ一煎いちせん用もち川せんサう二匁にもんくすりいやくちりより得効方

がれがれ氣きを労らうとるあてわれば衄血くさつちゆういづふ

桑本耳そうほんみみと熬あこじ粉こな水みづと揉もり杏仁あんぎん乃すなはちえさる鼻はな

乃すなはち中なかへ吹ふいれてより本草細目

上病じやうびやう後ごよりがれがれ氣きとれば衄血くさつちゆういづふ

牡蛎ぼうれい一匁いちもん石膏せうこう五匁ごもん粉こなあて一匁いちもん酒さけと用もち也なり同

口鼻血くちばしけつ

口鼻くちばしより一度いちど血ちゆういづふ

赤馬せきば乃すなはち屎しとよき灰はいあて一匁いちもん温ぬるやう酒さけと用もち也なり本草細目

又方麦門冬むぎもんとう心しんをすり八匁はちもん搗つて汁じゆうとすり蜜みつ一合いちがう入いかして

まぜ飲のみてより同

又方荆芥けいがいとよき灰はいあて火毒かどくをととけし粉こなあて二匁にもんづ

苴し米まい乃すなはち飯いひのすり湯ゆかきまぜのすりより衛生易簡方

又方百草霜ひやくそうじやう乃すなはち粉こな二匁にもん飯いひのすり湯ゆかきまぜ用もち也なり

或あるは飯いひとせれあしこれのすりより同

又方童便どうべんをのすりより同或あるは自身おんしんの小便せうべんあてりたり

を直ちく飲のみてより同

酒さけをゆかく飲のみ并なみに色慾しきよく分ぶんは過すて口鼻くちばしより血ちゆう出でりて泉いづみ

乃すなはちくちりふ

荊芥と焼粉ゆて二女陳皮の煎湯にて用也 本草綱目
口鼻耳より一度はよく血いづるに

麩二女冷水に入かきませ塩ざりのしづー同

又方生地黄を搥汁一合志ろり蜜を十分一かど

姜汁を二十分一かどいれかきませのびづー同

又方蒲黄阿膠多り等分いして二女水天目ふ二盃生

地黄汁天目二二分入煎じ一盃すた煮つ免飲て

大に鷲のしり目口鼻より一度は血いづるに

水を二面は吹くけてしづー同

婦人月水通せど逆のりて口鼻より血ゆりふ

京墨をきくとりのもて血をまけて後當歸尾紅花等分

水にて煎じ用ゆきば月水通じて愈べし同

尿血

小便より血いづるに

蒲黄乃粉五分生地黄の汁をて用也或ハ乳髪と焼灰

小一五分いれ用て愈し 本草綱目

又方茅根を水に煎じのりてしづー同

又方五倍子と粉じ梅干の肉は搥ませ胡椒をん丸

じて七八十粒空腹に酒にて用也 同

又方枸杞根皮を搥汁をちぢり一碗のりし酒がづり

さし飲てしづー若生乃枸杞根皮をい乾し酒をちぢりて

煎じ用てしづー同

又方側柏葉黃連同く焙り研て粉ふし二女げ

酒にて用也 同



小兒小便下血 衛生易簡方
又方 髮灰 甘草 梢 拖子 仁 多 分 水 一 盞 づ 氷 一 盞 づ
用 白 傳 信 尤 易 方

尿血 通 じ ら れ ぬ 方

葎草の根を搗汁二合とかりと醋を十分一程とれ

かきまきせととるん のととるん 本草綱目

小便血いして止らるん

龍膽二反 水天目一盞 一盞に煎じつち用也 同

汚血胸中いどいどいり濁の中い紫黒血とるん

車前草汁 藕汁 小薊汁 多分 炒黒くとる 蒲黄の

粉をかきまきせ 空腹に用也 治法彙

婦人故なくして小便より小便血とるふ

毫骨を粉めて一盞づ 空腹に酒とて用也 日に二反

用也 千金簡易方

又方 爪甲 乱髪 多分 湯とて用也 同

小兒小便より血とるふ

升麻を水と煎じ用也 本草綱目

又方 甘草を水と煎じ濃煎じ用也 同

又方 小豆の葉を搗汁ととるん 湯とて用也 千金簡易方

又方 蒿菜と搗て臍の上へつけてとるん 楊氏方

下血

一切の下血也

敗瓢を焼 黃連 多分 粉めて二反 空腹に温めて酒

とて用也 本草綱目

又方 大蒜を熟灰ととるん 煨じ 碎細く 黃連の粉

いととるん 胡椒を丸めて六七粒づとるん 湯と

て用也 同

又方薤菹小蜜をつひ多う心次方いし程も合とどし 同

又方何首烏を粉めて一二五づ飯のころ湯うて空腹う

飲金一 同

又方棕桐皮八十五括樓一ツ同しく焼灰ふ一飯のころ

湯うて用也 同

又方百草霜を研細め一麩粉を多分にかきまぜ水

うてゆり乾菓子さきのまきゆりて煮熟し喫べ 慈惠方

又方香附子と童便一いし炒て粉ふ一五空腹に茶

湯うて用也又い白湯うて用也 同

又方小薊乃葉を搗汁をとりわすうて用也いんろ母

下血とくふ用てよし 本草綱目

年久しく下血や漏るる

卷柏地榆等々同しく焙うて二五水天目小二盃入一盃

煎つり飲てよし 同

又方薊尾草一五地榆一五水天目小二盃入一盃煮し

片ろとさきうて用てよし又い粉ふ一湯うて用也 同

下血四五升下し或い人命危きん

黄蘗十五皮をけつろ去雞子卵白をぬわう多う粉ゆ

うりてゆり條豆のさき丸ト七粒づ白湯うて用也 同

又方絲瓜とやま十五槐花五五同しく粉ゆて一二五げ

空腹ふ飯のころ湯うて用也 同

下血日夜一七八寸度程ならん

黄連黄蘗各一五醋天目小二盃入一盃以煮下用也 千金簡易方

大便通じりまんに下血とらふ

石菖を粉めて二五蒸乃粉と水にて煮ゆけ用也 本草綱目

又方石榴皮を多し研て粉に一茹の枝と水にて煮て
つり汁とて用也 同

大便通下後下血とらん

凌霄花を酒ぬらして煮るの汁とて用也 同

又方五倍子と粉めて一盃艾葉の湯にて用也 同

又方白鷄冠花子と共炒水とて煮て用也 同

又方艾葉と生薑と瓜水とて煮て用也 同

又方赤小豆七合を煮て三升粉めて一盃白湯
にて飲べ 千金簡易方

下血して腹つゝむ

草烏頭皮と臍と瓜と一盃蛤粉炒各二盃で苗香炒六分
塩少々水天日一盃入八分の一盃で一夜露とて用也

がこれ冷と瓜の汁とて用也 本草綱目

酒を多し飲み下血とらん

槐花すまみすかいはのまきかハ炒山梔子炒て五盃粉ふ
一ニ盃で瓜とて水とて用也 同

又方大から田螺みツ火よく焼殺とて肉の肉乾とて用也

又方粉ふして一盃を煮酒とて用也 同

又方山梔子と焙り粉めて一盃瓜とて水とて用也 同

又方丝瓜一ツ皮も焼粉めて二盃で空服酒とて用也 同

又方鯽魚を酒とて煮て用也 同

又方葛根と搗汁とて蓮藕と搗汁とて煮て用也

三四合を煮て飲盡して一盃で煮物を合して下血
とらん小用也 同

腸風はとみくられ血を下とかり

銀杏を熟して一盃で煮て一盃で煮物と合して下血
とらん小用也 同

嚼く飯の湯少くの下とん 同

又方鯽魚鱗をばらき腸を去其内へ五倍子の粉をけめ

出けこちやぶるやまを粉して一合酒と用也

或は糊と粉を丸で用也 同

又方茄子の蒂を粉して一合飯の湯と用也 同

又方霜を経て乾した絲瓜をやき粉して二合空腹酒

はく用也 同

又方槐花炒刺芥穂側柏葉各一分粉して二合で扱設り

煎湯して用也或は米飲はく用也 傳信を男方

又方脊骨のうへ脗をきり灸と七壯と久し

病は其傍各一寸づらして灸と七壯と灸と 傳効方

臍毒の濁りから血をとりとかり

温酒と用也 本草綱目

又方五倍子十文を焼くはく粉し陳米の糊

て移り大豆の皮を丸で三四十粒で空腹粥の湯

多用の日三度用也 同

又方乾柿をやき灰か茶湯のかきまぜ用也 同

又方車前草根を握生姜一ツ新汲水で洗ひ

き漉して渣をさり血の下んとするまへ腰乃間重く

下血久し大腸虚寒し 治法彙

又方卷柏を粉し二合で米飲して用也 同

附子一ツ熟灰を入らばやきふし皮と脗を去白礬

同く粉し二合で酒と用也又附子一ツは生姜

二合五分水と煮し用也或は黒豆百粒加へば

本草綱目附子の
ま製はのり

用也それれりたけい乳髪入の頭垢男髪と用てり 治法彙

毛孔出血

熱身の毛孔より血いつる

小兒胎髪を焼灰あて付べり并に鼻の中へ吹つれり

本草綱目

又方生姜汁と水にのみまぜ二三盃のそとより 同

又方黄連鬚とけりり去好酒より一土鍋へ入煮りかり

但し酒ハ黄連より一寸程くみぬゆる程つれ煮乾し晒し

かひり粉小糊して移り豆乃大豆丸九ド三十粒づ空服

白湯にて吞つり 治法彙

產婦大い喜ぶてありて毛孔より血いつる小

律草搗く汁八合志ぢりり酢小茶碗より一ツ入のみまぜ空

卒死

何より此一切乃死しころに

葱の心け黄からろ瓜よりて鼻孔へ四五寸程さしちみ血出

舞りてより血おざりバ治せど男よハ鼻のたれ孔よりた

さしころじり 本草綱目

又方生半夏の粉と鼻の中へ吹つれてより 同

又方韭を搗けをより鼻の中へ灌つれてより 同

又方皂莢と粉より大豆乃大豆程死人乃鼻の中へ吹

つれ嘔吐れりみりふる魚 肘後備急方

又方死人のまは土指り三毛のま中へ各瓜七壯とて

より或ハ三七壯とてより 同

又方鬚汁とわらう死人の支脇の下と射穴竈中墨と杜
 把の核一ツを酢のまきまき死人れ口中へ灌つれさて管
 して死人れ耳の中を吹て幾人れかりて吹てより又
 小き管はく死人れ鼻孔と吹線上塵を豆一粒を鼻
 へ吹つるべし同
 又方薤を搥けをちかり死人れ耳の中へ灌つる也并に
 皂莢と粉ふ鼻の中へ吹つるべし卒死月閉
 ころ小用の同

物ハヤと粉ハヤくにより卒死サロトしたるふ
 湿りころ酒を口へ灌つるべし 本草綱目
 小兒扱サロトかきして卒死サロトしたるべし
 葱サロトの白根を肛門并小鼻のあろ孔へ吹つるべし氣
 通サロト小嚏サロトゆれによりふふべし同

客忤

客忤ハ大概途中にガヤて邪氣ガヤなれ心腹ヒヤク緩ヒヤクがどく
 つらみ腹脹ウツらして氣胸キウへさのせ死サロトるとすなり
 鼻の下人中ウツに客忤ウツ三十壯サロトとてより水ウツと糞ウツを漬ウツ
 其汁ウツと粉ウツを飲ウツてより病人ウツに吹ウツくいつく開ウツりさる
 は刀物ウツおしを口へ吹ウツつるべし 附後備急方
 又方墨ウツをすり其水と飲ウツてより同
 又方鼠ウツをすり其水と飲ウツてより同
 又方細辛ウツ桂心ウツを粉ウツふ口中へ吹ウツつるべし同
 又方麝香ウツ一丸粉ウツふ醋ウツを合ウツふかきませ用ウツの同
 又方とせに死ウツしたる者ハ白鷺ウツ乃血ウツを口中へ灌ウツ入ウツる

鬼擊

鬼擊 人卒 胸脇腹内さくさくしてみ或ハ吐血一或ハ
 衄血して或ハ下血して死かんとするなり
 鼻の下人中に灸一壯とてより愈むい多くすては
 又ハ肘乃下一寸に灸を三壯すより 肘後備急方
 又方升麻独活肉桂各一分粉めて二瓦酒一かきまを
 用の同
 又方塩三合水六合けりまきまを飲せより茶に冷みを
 灌してより病人吐逆とれば愈むなり同
 又方醇酒をうく病人吐鼻の中へ吹つるより同
 鬼擊 人卒 胸脇腹内さくさくして死かんとするなり

故く汚まじり禪襦を焼灰めて二瓦沸湯よかきまを用の
 病人男も女も禪襦を用や女も男のと同ては 本草綱目
 鬼擊 人卒 胸脇腹内さくさくして死かんとするなり
 烏と雄雞の血をとり心下にぬれりよみくより同
 又方葱文花二瓦水して煎て用の同

聖寐

聖寐 臥らうら邪氣よわるとして目覚む或ハ其後して
 死するなり
 病人乃踵鼻に足乃大指甲の隙と齒とを以てしてはく齒一
 病人吐面唾とみくさくれば目覚むなり 燈火をど
 け照といわくさく火乃さくして照せばそのま死
 めるものなり 肘後備急方

又方皂莢と粉ふし鼻の孔へ吹ひらぐ同
 又方伏竜肝と粉ひし鼻の中へ吹ひらて同
 又方肉桂と粉ふし鼻の中へ吹ひらて同
 又方足乃大猪之毛の毛中に灸と二十一粒とて同
 臥て眠らるるら忽死するに

鷲をそとく死人の口に向く頭とまり血脈をたに死人乃
 けし瀝しるぞし并に竹筒して死人の肛門と吹て同幾人
 もかりく吹べし但し鷲の雄鳥と用らる本草細目
 又方雄鷄冠血ととり死人の面を塗かけけり同
 よし并に死人の鼻の孔を管ひて吹べし同

尸一歌

尸歌ハ率に腹脹りて息とるもさるば胸にさるのぢせ

又服若く或は腹中塊さいで或は腰背へ引つらさじ或は
 死するぶく唯息とるやと麻いさどて腹う同いあて
 うわらるものあり

鶏子白く糸よりまきりに飲せし病人の血くらほめ
 又方口をわけ鶏子白をいれ頭とあげく粉せが
 唯め下りかり肘後備急方

又方糞米一合に水と合入一沸して糞とて用之同
 又方地穴をけりあそられかきとてさびく同の澄
 くかきとてのまて同

又方乳髪焼粉ふし杏仁熱く炙るらるる搗大豆の皮
 さふ丸ト立亡粒つづ白湯にて用也同
 又方土拖ふとて粉ふし酒とて用也同

邪祟

鬼魅の宿をとりてい今俗に又はと物をどけく煩ふ類なり
伏竜肝と粉ふし鼻の中へ吹入るべし 本草綱目

自縊

縊て死せりしを小瓶に封じ置るべし

皂莢の殻を粉ふしてかみ重鼻の内へ吹入れてす 本草綱目

又方鷄屎白と棗の皮を酒に漬けてはまぜて鼻の孔へ灌

ついです 同

又方繩をとまきせりし死人の鼻の孔にさしこみ塞ぎ竹筒を

死人の口へ挿し強く吹きこむべし 幾人もかつかく吹せしむれば

吹せしむるもさだに死せし氣のぬれざるやうにせむべし 白胡椒を

死人の鼻の孔へ吹きこむべし 千金簡易方

又方鷄冠血をとり病人の口へ灌らるれば鮮るべし 或は鷄の

血を喉のあたりに吹くべし 同

又方粟上塵二豆りたを程筒の中に入れて四人して一同に死人の

あはれ鼻の孔の孔へ吹くべし 本草綱目

又方大豆一粒を水に煮て夏の新ぼろろと鼻の中へ吹くべし

一日をかくとよみぐるを 同

溺死

水に溺まるといふ

死人をたかき材の上より引さしちあはれを高くして壺を筒の

中にぬれぬる自然に水流いで鮮るべし 倒よいつびを

して水にさらし物とていふまふあし 本草綱目

又方皂莢の殻を粉ふし紙につく肛門の内へ挿しこむべし

がくくして水ゆくまみぐるをー 同

又方猪石灰とつと肚の中へつらるるが妙ぞ 同

又方死人を牛背に横とゆい肩よりあはる人にて死人をとらん

牛とよまゆらふ歩ませゆけい死人腹中のあふ自然あつた

たのした生薬と死人の牙に揉むれば腹くぐー 備急易方

又方ぬを煮死人を覆い唯鼻口耳がらゆーをくぐー妙冷

きちくが取入てー 千金簡易方

又方死人のあはるとゆら死人の腹と人の背につけく肩い走

まび水と吐てぼー 得効方

又方多う死人衣類と解せ胸中へ灸とと人管くく耳を

吹くー 救急易方

凍死 附倒死

冬月寒氣よわたり凍死并に水落凍死つらんと

急い温ら衣類とぬがせとり人の背あてらる衣類ぬ

て死人をつと木灰炒熱し心を暖くー或は灰を炒熱し

袋に入敷れし冷まび熱しつら取入敷くーを熱酒

并に善湯を灌らるるがとらるるー 衛生易方

高きより墮して死つらふいまぶ心乃わたり温まりある者ふい

死人を存せし其髪を控半夏の粉とよみ鼻の中へ

吹くくー息おら生薬けよ香油と中を口中へくく入るる 同

普救類方卷之四下終



